

事項一〇 湖南地方ニ於ケル南北兩軍間抗戰ノ際ノ日本側被害一件

四五二 三月二日

内田外務大臣ヨリ
在長沙池永領事宛（電報）

湖南政局不安ナルニ備ヘ弔慰金二萬元ヲ目標
トシ現地当事者ノ自由裁量ニテ解決方訓令ノ
件

第二号

貴電第六号ニ関シ

段々ノ御尽力ニ依リ支那側ヲシテ漸次当方希望額ニ接近セ
シメラレツツアルハ寔ニ好都合ノ次第ナルカ若シ近ク湖南
政局ニ變動ヲ来タシ趙恒惕一派ノ逃亡スルカ如キ場合發生
セバ其後継者ニ於テ省議會ノ認メタル一萬元以外ノ支出ヲ
容易ニ承認セサルヘキハ貴見ノ通りナルベシト思料セラル
ル処一方瀨川總領事ノ蕭宛書面モ已ニ到着シタル頃ト存セ
ラルルニ付此際急速交渉ヲ進メ可成二萬元支出ヲ応諾セシ
メタル上直ニ現金ノ授受ヲ了セラルル様努メラレ度ク、尤
モ右交渉中先方ニ於テ二萬元近ク迄折合ヒ来リタル際、政
局急転ノ虞アリテ請訓ノ違ナシト認メラルル事態到来セシ

ノ処如何トモスル能ハザルヲ以テ其内折ヲ見テ交渉スルカ
又ハ此際一万五千元ノ現金ヲ受取り事件ヲ解決スルカ他ニ
方法無キガ如ク思考サル如何取計ヒ然ルベキヤ何分ノ御電
訓ヲ請フ
公使、漢口ヘ電報セリ

四五四 三月十三日

内田外務大臣ヨリ
在長沙池永領事宛（電報）

天津弔慰金二萬五千元ニ同意差支ナキ旨回訓

ノ件

第三号

貴電第八号ニ関シ

湖南政局安固ヲ欠ク現下ノ状況ニ於テハ湖南事件ハ出来得
ル限り速ニ之ヲ解決スル方得策ナルノミナラス、其ノ財政
状態ノ不良ナルニ鑑ミ天津弔慰金ノ一萬五千元以上増額ハ
事實困難ナルヤニ思考セラルルニ付テハ此際湖南事件全部
ノ急速解決方ニ関シ支那側ニ於テ誠意アル態度ヲ以テ交渉
促進ヲ計ルコト並ニ大体弔慰金ハ即時現金ヲ以テ之ヲ支払
フコトヲ条件トシ一萬五千元ニ同意ヲ与ヘラレ差支ナク之
ト同時ニ直ニ右現金ノ接受ヲ了シ他ノ未決条項ノ解決ニ取

一〇 湖南地方ニ於ケル南北兩軍間抗戰ノ際ノ日本側被害一件

四五四 四五五

四五五

場合、若シ我方ニ於テ右先方申出ニ同意ヲ与フレハ直ニ現
金ノ收受ヲモ為シ得ヘキ状態ニ在リタルトキハ貴官ノ裁量
ニ依リ可然取極メラレ差支ナシ、尚貴電後段申越ノ件ニ関
シテハ我方ニ於テハ天津弔慰金ハ其省議會ノ承諾ヲ經タル
分ト然ラサル分トヲ區別セス之ヲ支那官憲ノ弔慰金ト見做
シ居ル次第ナルモ此点ニ付彼是争ヒ居ルトキハ肝心ノ弔慰
金額ノ交渉却ッテ等閑ニ附セラルル虞ナシトセサルニ付右
御合ノ上可然措置アリタシ
北京、漢口ヘ電報アレ

四五三 三月九日

在長沙池永領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

趙總司令ノ認メタル天津弔慰金二萬五千元ニ
テ解決スベキヤ取計方ニ付請訓ノ件

第八号

（三月十日接受）

本九日趙恒惕ヲ訪問、天津弔慰金増額方交渉ハ彼我好感情
ナルヲ以テ財政ノ涸渴セル今日漸ク一萬五千元ニ増額シタ
ルモノニシテ到底是以上ヲ増額スル事能ハズト主張シ目下

掛カラルル様致度シ
北京、漢口ヘ電報アレ

四五五 四月五日

在長沙池永領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

天津弔慰金一萬五千元ノ内差当り先ツ五千元
ヲ支払ヒ殘額ハ続イテ支払フコトトシ度旨先
方ノ懇請ニ付請訓ノ件

第一〇号

（四月七日接受）

貴電第三号天津弔慰金ノ件ニ関シ

御電示ノ通支那側ニ申入レタル一萬五千元ヲ現金ニテ即
時支払フコトノ条件ニ関シテハ財政困難ノ為差向五千元ヲ
支払ヒ余ハ陸統支払ヒ度キ旨懇願シ来リタルヲ以テ当方ハ
右金額即時払ヲ固持セシモ先方ハ之ヲ聞キ入レズ如何トモ
スル能ハザルヲ以テ目下時局ニ鑑ミ兎ニ角御電示二条件ニ
對スル回答ヲ書面ヲ以テ取附ケ置ク必要ヲ認メ御電示ノ趣
旨ニ基キ先方ニ書面ヲ發シ置キタル処昨四日附公文ヲ以テ
（一）右弔慰金ニ関シテハ曩ニ一萬元支出ヲ提議シ其ノ後趙總
司令個人ノ懇意ヲ以テ三千元ヲ増加シ次テ衆議ノ結果更ニ
二千元ヲ増加シ計一萬五千元トセリ右ハ遭難者ニ對スル弔

一〇 湖南地方ニ於ケル南北兩軍間抗戰ノ際ノ日本側被害二件

四五六 四五七

四五六

慰ノ意ヲ表シタルニ係リ省令ニ依リ処理セルニ非ザル旨、
(二) 湖南事件全部ノ急速解決方ニ関シテハ当然弁理スヘキノ
件ハ勿論誠意ヲ以テ商議スヘキハ予テ声明セル通ニシテ更
ニ交渉員ト貴領事商議ノ後確實ナル探查ヲ遂ケラレ決行ス
ヘキモノハ速ニ進捗セシメ急速解決ヲ図リ度キ旨並ニ弔慰
金ノ一項ニ関シテハ同意ヲ得タルヲ以テ即時全部ヲ交附ス
ヘキモノナルモ目下省財政困難其ノ極ニ達セルヲ以テ差向
五千元ヲ交附シ爾余ハ陸統交附スルヲ以テ兩國親善ノ原義
ニ依リ格別ノ取計ヲ請ヒ度キ旨回答シ来レル処此ノ際他ニ
何等方法ナキヲ以テ先方ノ懇願ヲ入レ差向キ五千元ヲ受取
リ他ノ未決事項ノ解決ニ取掛リテハ如何ニヤ大至急何分ノ
御電訓ヲ請フ

在支公使、漢口総領事へ電報セリ

四五六 四月十日

内田外務大臣ヨリ
在長沙池永領事宛(電報)

天津弔慰金一万五千元ハ全額即時払ヲ実行セ

シメラレ度旨回訓ノ件

第六号

貴電第一〇号ニ関シ

四五八 五月二十二日

在長沙池永領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

天津弔慰金ノ現金即時払実行方督促中ノ件

第二〇号

貴電第一一号ニ関シ

天津弔慰金ニ関シテハ現金即時払実行方書面並口頭ヲ以テ
督促中ナル処未ダ之ガ実行セシムルニ至ラズ更ニ嚴重交渉
ノ上追テ何分ノ電報致スベシ
北京、漢口へ電報セリ

四五九 六月十日

在長沙池永領事ヨリ
内田外務大臣宛

天津弔慰金ノ現金即時払要請ノ件

機密信第二九号

(六月二十二日接受)

大正十一年六月十日

在長沙

領事 池永 林一(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

天津弔慰金ニ関スル件

本件ニ関シテハ本年四月五日付機密第一四号ヲ以テ及報告

一〇 湖南地方ニ於ケル南北兩軍間抗戰ノ際ノ日本側被害二件

四五八 四五九

四五七

我方ニ於テ天津弔慰金一万五千元ニ同意ヲ与ヘ非常ナル讓
歩ヲ敢テセムトスルハ其ノ金額全部カ即時ニ現金ヲ以テ支
払ハルコトヲ絶対的条件トスルモノナルカ故ニ此際五千
元ノミヲ支払ヒ残部ハ陸統之ヲ支払ハントスル支那側ノ申
出ハ支那側從來ノ遣リ口ニ照ラシテ当方ノ断シテ同意スル
能ハザルトコロナルニ依リ此ノ旨嚴重支那側ニ申入レ是非
共現金即時払ヲ実行セシムル様努力アリタシ
北京、漢口へ電報アレ

四五七 五月十九日

内田外務大臣ヨリ
在長沙池永領事宛(電報)

天津弔慰金ニ関シ其後ノ交渉成行回報方ノ件

第一一号

貴電第一〇号ニ関シテハ往電第六号ヲ以テ回訓シ置キタル
処今般天津ノ遺族ヨリ右ニ関スル交渉經過承知致シ度キ旨
申出ノ次第有リタルニ付其後ニ於ケル交渉成行至急回報ア
リタシ
北京、漢口へ電報セリ

候処其後ノ交渉經過ハ別紙趙恒惕宛往信写甲乙兩号ノ通り
ニ有之候間委細ハ右ニテ御了承相成度猶右弔慰金現金即時
支払方ニ関シテハ繼續嚴重交渉可致候条此段報告申進候

敬具

本信写送付先 在支公使 在漢口総領事

(別紙一)

写甲号

大正十一年四月十三日池永領事ヨリ趙恒惕總司令宛書信

拝啓陳者天津弔慰金ニ関シテハ客月二十七日付拙信ヲ以テ
二項ヲ条件トシテ貴方御主張ノ一、洋銀一万五千元也ニ同
意スヘキ旨及照会候処本月四日付貴信ヲ以テ右一項天津弔
慰金一、洋銀一万五千元也ノ即時払ハ困難ナルヲ以テ差向
キ一、洋銀五千元也ヲ交付シ余ハ陸統支払度旨御申出有之
候処当方ニ於テ右弔慰金一、洋銀一万五千元也ニ同意シ非
常ナル讓歩ヲ敢テセントスルハ其金額全部ガ即時現金ニテ
仕払ハルコトヲ以テ絶対的条件トスルモノニ有之候間前
記貴方ノ申出ニハ当方ノ断シテ同意スルコト能ハザル次第
ニ有之候条此際是非トモ右現金即時払ヲ実行セラル様相
成度此段重テ照会得貴意候

敬具

(別紙二)

写乙号

大正十一年六月十日池永領事ヨリ趙恒惕總司令宛書信第三号

第三号

拝啓陳者本年四月十三日付拙信ヲ以テ天津弔慰金現金即時
払実行方及照会候処其後約二ヶ月間ヲ経過シタル今日何等
御回答無之延引今日ニ及ヒ候ハ当方ノ甚タ遺憾トスルトコ
ロニ有之候条此際至急右現金御交付相成様致度此段照会得
貴意候 敬具

四六〇 六月二十三日

内田外務大臣ヨリ
在長沙池永領事宛(電報)

天津弔慰金ニ関シ更ニ緩和的試案内示竝先方

ヲシテ我趣意ニ副ハシムル様措置方指令ノ件

第一二号

貴電第二〇号及貴信機密第二九号ニ関シ

天津事件ニ関シテハ同人遺族ハ勿論當方ニ於テモ之カ急速
解決ヲ切望スル次第ナルガ若シ支那側ヲシテ一万五千元全
部ノ即時現金払ヲ実行セシムルコト到底見込ナシトセバ此
際寧ロ其ノ半額位ヲ即時現金ニテ受ケ取り残額ニ付テハ極

メテ短期ノ約束手形ヲ振り出サシメ一応片ヲ着ケ置ク方得

策ナルヤニ思考セラルルモ若シ我方ニ於テ右ノ如キ意向ヲ
有スルコトガ支那側ノ知ル所トナラバ先方ノ態度ハ益々強
硬トナリ交渉上又々我方ノ不利ヲ招クベク曩ニ一万五千元
即時現金払迄讓歩スルコトシタル際貴官ニ於テ直ニ之ヲ
先方ニ書面ヲ以テ通牒セラレタルガ如キハ最モ拙劣ナル遣
り方ト存スルニ付今回ハ右我方ノ底意ハ最後迄厳密ニ附シ
置クコト絶対ニ必要ナリト思考ス貴官ハ右篤ト御含ノ上書
面ニ依ラズ更ニ趙恒惕ニ直接折衝ヲ重ネラレ一万五千元即
時払力当初ノ我方要求ニ比シ非常ナル讓歩ナル所以ヲ説示
シ以テ彼ノ切実ナル反省ヲ促シ結局前記我方ノ底意ヲ先方
ヲシテ申出デシムル様御措置相成タシ
北京、漢口へ転電アレ

四六一 七月二十六日

在長沙池永領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

天津弔慰金ノ内五千元ノ即時支払ヲ先方申出

デタルモ飽ク迄全額即時払ヲ交渉中ナル旨報

告ノ件

第三二号

(七月二十八日接受)

四六二 八月十七日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

張敬堯ノ泰平組合ヘノ兵器購入手付金ノ返還

要求ニ対シ湖南事件賠償金ヲ差引返還セント

スル案ニ関シ請訓ノ件

第五七六号

(八月十八日接受)

天津弔慰金ニ関シ楊交涉局長去ル二十日来訪弔慰金ノ即
時払ハ到底実行困難ナルヲ以テ差向五千弗受入方申来リタ
ルヲ以テ貴電第十二号末段ノ通切実ナル反省ヲ促シ(脱)
ヲ訪問同様即時払ノ実行ヲ迫リタルモ縷々財政困難ノ事情
ヲ具陳シ此際即時払ヲ実行セザルコトハ何トモ申訳無シ目
下ノ処五千弗以上ヲ支出スルハ不可能ニ付余ハ現金出来次
第支払フ旨ヲ述ベタルニ依リ更ニ之カ再考ヲ促シ引取りタ
ル処本二十六日楊ヨリ突然五千弗送金スヘキ旨申越シ来リ
タルモ兼テノ御電示ノ通其半額ニモ達セズ且ツ残額ノ支払
ニ付テモ未ダ何等制限ヲ附スルニ至ラザルヲ以テ當方ハ依
然即時払ヲ固持シ拒絶シタリ同人ノ内話スル処ニ依レバ現
金ノアル際隨時支払フニ非ザレバ財政困難ノ際勢ヒ(脱)
殊ニ軍官ヨリ之ガ流用ヲ迫ラレ困却スト況ンヤ此際多少ナ
リトモ支払ハザレバ近々民選ノ省長職ニ就クニ於テハ常ニ
省議會ヨリ掣肘セラレ益々之ガ支払ニ困難ヲ来スナラント
楊ハ又々金策ノ為今明日中漢口ニ赴クト

公使、漢口へ郵送セリ

何分ノ回答ヲナスベキ旨ヲ答ヘ置ケリ本件ニ関シテハ前記
籌賑会長ヨリ直接本使ニ陳情シ来リタル外、外交部ヨリモ
一再照会ノ次第モ存スルノミナラズ事態ハ手付金ノ交付ヲ
受ケナガラ契約ノ履行ヲ敢テセズ而モ契約解除ノ先方ノ要

求ニモ応ゼザルモノニシテ今日ノ状況ニテ到底近キ将来ニ於テ武器輸入禁止申合セノ解除セラルヘキ見込ナク旁々正當ノ理由ナク且地方人民多数ノ希望ニ反シ此儘手付金ヲ押ヘ置クハ甚ダ不公明ナル処置ト解セラルヘク且ハ罹災民救恤ニ資セントスル地方有力者ノ計画ハ頗ル同情ニ値スル次第ナルニ付此際泰平ヲシテ返還セシムルコトトシテハ如何カト思考ス尚ホ本件ハ右金額ガ正当ニ救済事業ニ使用セラルル様充分方法ヲ立テ且湖南大津事件ノ損害額ヲ差引キ残額ヲ直接同会ニ交附スル条件ヲ以テ解決スルモ一案カト存ズ泰平ノ意嚮ト共ニ何分ノ御回電ヲ請フ

四六三 八月二十六日 内田外務大臣ヨリ
在長沙池永領事宛

湖南事件解決促進方訓令ノ件

亜三機密第七号

湖南事件ニ関スル件

本件ニ関シ屢次御報告ノ次第有之候処本件ニ付テハ日清汽船会社其他ニ対スル損害賠償額協定ノ問題ト大津弔慰金支払方法ノ問題トヲ残スノミニテ其他ハ主義トシテ日支兩國官憲間ニ意見一致ヲ見ルニ至リタルハ御承知ノ通りニテ右

問題サヘ落着セバ大正九年以来ノ懸案タル本件モ解決ノ運ニ至ル次第ニ有之候処大津弔慰金ニ就テハ米國宣教師ノ例ヲ参酌シ殊ニ如何ニ人違ヒトハ云ヘ極メテ慘忍ナル支那軍隊ノ暴行ニ顧ミ金四万五千元ト定メ支那側ニ申出デタルニ拘ラズ其ノ財政ノ窮乏ヲ諒察シ曲ゲテ結局一万五千元迄減額シタル次第ニテ苟モ支那当局ニ於テ暴行ノ事実ヲ認メ責任ヲ感ズル以上ハ速ニ右金額ヲ支払ヒ日本政府ノ交譲的精神ニ酬ユルト共ニ被害者遺族ニ対シ誠意アル弔意ノ事実ヲ示スベキ道理ナリト思考セラレ候然ルニ右金額ニ付テモ屢次ノ貴電ノ通り依然財政難ニ辞ヲ構ヘ之ガ支払ヲ実行スルニ至ラザルハ本問題解決ニ関スル支那当局ノ誠意ヲ疑ハザルヲ得ザル次第ニ有之候小幡公使來電第五七六号末段泰平組合手付金ヨリ差引クコトハ一案トハ思考セラルルモ本件武器問題ニ関スル從來ノ経緯ニ徴シ泰平組合ヲ説得シテ右手付金ヲ返還セシムルコトハ到底急速実行ノ運ニ至リ難キヤニ認メラルルニ付本問題ハ往電第一二号ノ趣旨ニ從ヒ此上遷延ヲ重ナルコトナク至急解決ヲ見ルニ至ル様極力御尽力相成度

次ニ日清汽船会社等ノ損害額ニ付テハ客年往電第二二号ノ

(註)

ト共ニ本問題解決ノ為メ一層御尽瘁相成度此段申進候也
註 日本外交文書大正十年第二冊三七四文書(四八二頁)

四六四 八月二十六日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛

湖南事件解決促進方ニ付中国政府ニ申入ルル

様訓令ノ件

亜三機密第一七〇号

湖南事件ニ関スル件

本件ニ関シ別紙^(金)寫ノ通り在長沙池永領事ニ訓令シ置キタルニ付委細右ニテ御承知相成度就テハ貴官ニ於テモ支那当局ニ対シ支那政府ヨリ当該地方官憲ニ対シ速ニ本件ノ解決ヲ図ル様督勵方篤ト御交渉相成度支那政府ニ於テモ從來其ノ責任ヲ自認シ居レル次第ニテ何日迄モ地方ノ交渉ニ委シ之ガ促進ノ手段ニ出デザルハ甚ダ不誠実ノ態度ト云ハザルベカラズト思考セラルルニ付別信在長沙池永領事宛訓令ノ次第御含置ノ上精々御尽力相成度此段申進候也

註 別紙(長沙宛訓令寫)前掲ニ付省略

通り同社側ニ於テモ本問題ノ急速解決ヲ図ル為メ相当減額ノ意向アリ貴官ト協議スルコトト相成居リタル処右ハ其後如何相成居ルヤ從來ニ於ケル支那側トノ応酬ノ次第ヲモ参照シ適當ノ減額方同会社代表者ト協議シ之亦速ニ日支間ニ協定ヲ遂グル様御配慮相成度元來本問題ハ大正九年六月以來ノ懸案ニシテ其大部分ニ付テハ日支官憲間ニ意見一致ヲ見ルニ至リタルニ拘ラズ二三ノ問題ノ為メ今日ニ至ル迄解決ノ運ニ至ラザルハ甚ダ遺憾ノ次第ニテ支那側トシテモ速ニ不法行為ニ起因スル懸案ヲ解決シ誠意ヲ示スコト其實任感念ヨリ云フモ又友邦ニ対スル情誼ヨリ云フモ当然ノ義ニシテ斯ル不祥ノ事件ヲ永ク未解決ノ儘ニナシ置クコトハ日支兩國ノ關係ヨリ云フモ甚ダ面白カラザル次第ニテ日本政府トシテモ兩國關係ノ問題ハ勿論本邦人ニ対スル保護ノ措置ニ付テモ遺憾ナキヲ期スヘキコト言フ俟タザル所ニ有之本邦人ノ蒙レル損害額等ニ付テハ最モ公正ノ見地ヨリ厳密ニ評定シ之ニヨリ不當ノ利益ヲ得ンコトヲ企圖スルガ如キモノハ抑ユルト共ニ苟モ正当ノ主張乃至要求タル以上ハ政府ニ於テモ十分之ヲ支持シ目的ノ貫徹ニ努力致度意向ニ付貴官ニ於テモ右ニ御含置ノ上嚴重支那当局ノ反省ヲ促ス

四六五 十二月十三日

在長沙池永領事ヨリ
内田外務大臣宛

天津弔慰金及日清汽船会社等ノ損害賠償ニ関
スル趙湖南総司令トノ往復文書写送付ノ件

附屬書一 十一月二十日附池永領事ヨリ趙湖南総司令宛

書翰写

天津弔慰金支払後日清汽船会社等ノ損害賠償
交渉開始方申入ノ件

二 十一月二十九日附趙湖南総司令ヨリ池永領事
宛返翰写

右ニ対シ回答ノ件

三 趙湖南総司令ヨリ池永領事宛書翰写

弔慰金支払ニ付通告ノ件

四 十二月十一日附池永領事ヨリ趙湖南総司令宛
返翰写

弔慰金領収ノ旨回答ノ件

機密信第五三号

(十二月二十二日接受)

大正十一年十二月十三日

在長沙

領事 池永 林一(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

天津弔慰金ニ関スル件

(附屬書二)

(乙号写)

十一月二十九日附趙湖南総司令ヨリ池永領事宛返翰写
日本側ノ交渉開始方申入ニ対シ回答ノ件

逕覆者接准十一月二十日

台函誦悉一是大津弔慰金一万五千元本底早交以資了結無如
金融窘窘遷延至今深為抱歉刻正竭力籌維稍遲必有以報
雅命也至日清汽船会社其他損失亦当即日決定以踐前言相応
函覆請煩

查照為荷此致

(附屬書三)

(丙号写)

趙湖南総司令ヨリ池永領事宛書翰写
弔慰金支払ニ付通告ノ件

逕啓者關於天津來德前年在湘潭被害事久經
總司令部與

貴領事磋商解決所有心給大津弔慰金華幣
一万五千元昨准總司令部如数送到当派本公署交涉股股長楊
宣誠賞送瀨川總領事查收在案本件茲已告一結束應請

本件ニ関シ別紙甲号写ノ通り支那側ニ照会致置候処別紙乙
号及丙号写ノ通り回答致来候間別紙丁号写ノ通り回答致置
候委細ハ右ニテ御了承相成度此段申進候 敬具

追而右支那側来往信ニ関シテハ瀨川總領事ヨリノ往電ニ
テ已ニ御了承ノコトト思考致候条此ノ旨申添候也

本信写送付先 在支公使、漢口總領事

(附屬書一)

(甲号写)

十一月二十日附在長沙池永領事ヨリ趙湖南総司令宛書翰写
天津弔慰金支払後日清汽船会社等ノ損害賠償交渉開始方申入
ノ件

拜啓陳者本月十六日御來訪ノ節大津弔慰金一万五千元ハ一
ヶ月以内ニ全額交付相成ルヘキ旨御声明相成リ又日清汽船
会社其ノ他ノ損失モ賠償金額決定ノ上ハ其ノ金額交付方ニ
関シテハ追テ協商相成ヘキ旨御言明相成候処瀨川總領事モ
公務ノ都合上成ルベク速ニ漢口ニ帰任ノ希望ヲ抱キ居候ニ
付大津弔慰金モ出来得ヘキ丈ケ急速交付方御取計相成度尚
日清汽船会社其ノ他ノ損失金額ハ今一応御協議ヲ遂ゲ決定
致度シト存居候間右協定ノ場所及時日等至急御取極ノ上御
回答ヲ煩ハシ度此段得貴意候 敬具

貴領事出具正式収拠送交本署以便転送總司令部備案藉完手

続丞亟盼

照弁見覆為荷專布順頌

日祉

(附屬書四)

(丁号写)

十二月十一日附池永領事ヨリ趙湖南総司令宛返翰写
弔慰金領収ノ旨回答ノ件

拜復陳者天津來德弔慰金一銀壹万五千元也ニ関シ今般別紙
写ノ通り支票貳通ヲ以テ御交付ニ相成リ正ニ領収致候間左
様御了承相成度此段回答得貴意候 敬具

註 別紙(支票)写省略

四六六 十二月二十三日

在長沙池永領事ヨリ
内田外務大臣宛

天津弔慰金送付ノ件

附記

大正十二年二月七日附竹内日清汽船社長ヨリ内
田外務大臣宛書翰
天津氏実父ニ弔慰金送付ノ件

機密信第五五号

(十二年一月八日接受)

大正十一年十二月二十三日

一〇 湖南地方ニ於ケル南北兩軍間抗戦ノ際ノ日本側被害一件 四六六

在長沙

領事 池永 林一(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

大津弔慰金送金方ノ件

本件ニ関シテハ往電第七六号ヲ以テ伺ヒ置ノ処今般貴電第三七号ヲ以テ本省宛送金スル様御回電ニ接シ敬承、別紙中日銀行手形ノ通り換算貴地台灣銀行經由會計課長宛及御送金候間御査取相成度ク猶次回右ニ関スル送金モ同様取扱可致候条右様御了承相成度ク此段申進候 敬具
追テ貴電第三七号末段現金受領ノ事ハ其当時北京、漢口へ転電済ニ有之候間此段申添候

添付書類

一、第三〇号一金七千八百拾貳円五拾錢也

中日銀行手形 會計課長宛ノモノ 屯通

一、中日銀行換算証相場九拾六弗換屯通

但シ大正十一年十二月二十三日換

(附記)

大正十二年二月七日附竹内日清汽船社長ヨリ内田外務大臣宛書

翰

大津氏実父ニ弔慰金送付ノ件

事項一一 北満守備隊撤退ニ関スル件

四六七 六月二十八日

在ハルビン山内総領事ヨリ
内田外務大臣宛

日本軍ノシベリア及北満地方ヨリノ撤兵ニ関

シ中国陸軍首班会議開催ノ件

機密第一一〇号

(七月四日接受)

大正十一年六月二十八日

在哈爾濱

総領事 山内 四郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

支那陸軍首班会議開催ノ件

我帝國政府ノ西伯利亞及北満地方ニ於ケル駐屯軍撤兵声明ニ関シ支那陸軍首班等ハ五月二十七日護路軍總司令部ニ於テ予備會議ヲ開キ左記ノ事項ヲ協議シタリト云フ

記

一、西伯利亞及北満地方ニ駐屯スル日本軍撤兵スル時ハ赤軍及馬賊団ノ横暴ヲ免レザルノミナラズ奉直戦争後民心安定セザル今日支那トシテ最モ注意ヲ要スル時期ナリ

一一 北満守備隊撤退ニ関スル件 四六七

大正十二年二月七日

日清汽船株式会社

社長 竹内 直哉(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

大津来徳弔慰金ノ件

過般支那湖南政庁ヨリ御受領被下候故大津来徳弔慰金壹万五千五百四拾円八拾五錢ノ義ハ去ル一月十一日貴省ヨリ受領後直ニ熊本県山鹿町大津遺族へ送金方法ニ付照会致シタルニ同十八日肥後銀行山鹿支店宛送金方申越シタルニヨリ同日直ニ送金ヲ了シ候処同二十五日正ニ右金員ヲ受領セル由ニテ本日実父大津民作ヨリ懇篤ナル謝状ニ接シ候間為念此段御届申上候 敬具

二、東支鉄道ハ世界強國ヨリ國際管理ヲ主張スル矢先日本

軍撤兵後赤軍馬賊等横暴ヲナシ外國人ノ生命財産ニ危害ヲ加フルコトアランカ忽チ東支鉄道ハ國際管理ト為スニ相違ナシ然ル時ハ中華民國トシテ重大問題ナリ

三、奉直戦争以前ナレハ日本軍撤兵スルモ何等慮カル事ナク中国軍隊ニテ充分ナル警備ヲ為シ得ルモ目下兵器及兵力ノ不足勝ナル上ニ財政ハ困難状態ナルヲ以テ完全ナル警備ハ覚束ナシ

四、日本軍撤兵迄ニハ約五千ノ國境警備兵募集ノ必要アリ張作霖ニ申請シ日本軍撤兵事実ナルヤ否ヲ確メ更ニ會議ヲ開キ善後策ヲ講ズル事

五、東支沿線ノ中国軍隊ハ其責任ヲ重ンジ外國人及外國軍隊ト衝突セシメザル様各營長ニ訓令スル事

六、以上予備協議ヲ為シ最近ニ正式會議ヲ開催スル事ニ決シ閉会セリ

参考 駐屯軍撤兵声明ニ対シ市民ハ一般ニ好感ヲ抱キ満足セル傾向在リ

四六五